

看護薬理学公開セミナー

「服薬支援を実施するにあたって
知っておきたい看護に活かせる薬理学」

服薬支援：

薬理学と
看護学

とのコラボレーションに対する期待

開催期間

2023年8月19日(土) 16:00~17:00

オンライン開催

オンデマンド方式で開催いたします。

詳しくは学術集会ホームページよりご確認ください。

<https://site.convention.co.jp/jsnr49/>

講師

鍛冶園 誠 先生

岡山大学病院 薬剤部



座長

赤瀬 智子 先生

横浜市立大学 大学院医学研究科
看護生命科学分野

お問い合わせ先

一般社団法人日本看護研究学会 第49回学術集会事務局

e-mail : jsnr49@convention.co.jp

薬剤はその使用や保存にあたり注意すべき項目が多く存在します。実際患者へ与薬する際や服薬支援・服薬指導をする際に遵守しないことで、「十分な薬効が得られない」、「副作用の発現率が上昇する」、「アドヒアランスが低下する」などの重大な影響を及ぼすことも少なくありません。

患者に「与薬する」最終かつ重要な過程を担当するのは看護職でことが一般的です。さらに患者に最も寄り添う職種である看護師は、アドヒアランスに関する問題や副作用発現の最初の発見者になることも多いのが特徴です。そのため、どれほど業務が分業化され、タスクシェアが進んでも、看護師における薬理学の必要性や重要性は増すことはあれ、不要になることはないと思います。

しかし患者に有効で安全な薬物治療を実践する上で、薬剤の薬理的・製剤学的な深い知識は必要ですが、繁忙を極める業務の中で、多くの医薬品の薬理や製剤の特徴を学び、熟知することは容易ではありません。また一般的注意に対する知識は持っていても、その根拠を理解していないと、患者に納得のいく説明を行うことはできず、効果的なアドヒアランスの向上につながらない可能性もあります。

そこで本セッションでは、看護師が普段取り扱う機会の多い薬剤の中で、患者への服薬支援が必要な薬剤をいくつか取り上げ、薬理学・製剤学の観点から概説したいと思います。